

シンポジウム

教育と直感

奈良女子高等師範学校蔵教育標本の変遷を素材に

奈良女子大学には、戦前期に集められた数多くの教育標本が所蔵されています。その中には、元は手向山八幡宮蔵のものかと思われる唐鞍の一部、雲珠などもあります。その雲珠の発見は、今春、新聞・テレビなどでも報道され、多くの人の知るところとなりました。ただ、ではなぜ、これほど多数の教育標本が本学に所蔵されているのか、その理由の解明は未だなされていません。どうもペスタロッチ教育法の影響が強かったようなのですが、その解明を行うのが本シンポジウムの課題です。ご参集のほどよろしくお願ひします。なお本シンポジウムは、只今本学が取り組んでいる「組織的な大学院教育改革推進プログラム」の一環として行われます。

時間と場所

2010年10月31日（日）午後1時～4時

奈良女子大学文学部南棟S228教室

報告者

村上由佳（国立公文書館・歴史学）

討論者

勝山元照（奈良女子大学附属中等教育学校・歴史学）

西村拓生（奈良女子大学文学部・教育学）

杉原慶子（奈良女子大学大学院学生・歴史学）

司会

小路田泰直（奈良女子大学文学部）

主催：大学院G P関連科目「実践スキルゼミナール」（古文書調査実習）

どなたでもご自由に参加いただけます

連絡先：小路田研究室（20-3311）